

えんぺいがま
圓平窯 小倉麻衣子 さん

洲本市上物部2丁目1-38
0799-22-3645
HP: <http://enpei.net/>

圓平窯(えんぺいがま)は三代続いている淡路島でも最も古い窯元です。小倉麻衣子さんは、三代目小倉圓平さんの娘さんで、幼い頃から焼物とは身近な環境で育ちました。子どもの頃から自然と土を触っていたと言います。そして陶芸を始めたきっかけは、土という自然の素材を活かし、自然の力を借りながらモノづくりを進める工程が、御自身のスタイルに合っているように感じたからだそうです。

麻衣子さんのおじいさんである二代目小倉圓平さんの頃は、登り窯や倒炎式の窯があったようですが、現在は電気窯とガス窯になっています。多くの釉薬を使用することや微妙な温度管理の中で焼くことで、よりイメージに近い作品になるそうです。

圓平窯の作品は、多彩な釉薬を使用することで、一定の作風にとられない、様々な色合いや風合いの作品を楽しめるのが特徴です。

大まかな作業工程は「土練り→成形→素焼き→釉薬→本焼き」と流れますが、全工程が完了するまで約1ヶ月かかるそうです。

新たな作品を作る時は、ある程度創りたい作品の最終イメージを固めた上で、作業に取り掛かるそうですが、作業途中での新しいひらめきも大切にされています。

「淡路はまだまだ自然が豊かで、食べものも新鮮で美味しいし、散歩をしていても新たな発見があったり…と生活の一つ一つが次の作品のイメージに影響を与えてくれます。」と麻衣子さんはおっしゃいます。

姫路の学校で陶芸の講師もされている麻衣子さんは、11月17日から22日まで姫路市のヤマトヤシキ姫路店で「小倉圓平・小倉麻衣子 作陶二人展」を開催されます。少し遠いですが、足を運んでみては如何でしょうか？秋の好古園(姫路城西御座敷跡)の庭園も美しいですよ～。 応援隊: 栄 宏之



こうきょこうらいがま
好去好来窯 松本ひづる さん

淡路市釜口1435
0799-74-5739



淡路市の釜口に松本ひづるさんの好去好来窯(こうきょこうらいがま)があります。この名前の由来は、ご主人が中国の詩の中から選び、「気が向いたときにおいでください。そして、気が向いたときにお帰りください。」という意味があるそうです。自然がいっぱいのところにはひっそりとたたずみ、静かに出迎えてくれます。

松本さんは、14年前陶芸教室に行ったのがきっかけで、もっと深く勉強したくなりました。そして岐阜の学校で基礎をマスターし、釉薬については、陶芸書の著者でもある手島先生から学びました。手島先生は、生徒から質問をしないと教えてくれず、目的をもって学校へ行くことの大切さを再確認したと言います。

淡路市へは花博に来た時、好季節だったので気に入って、6年前に引っ越してきたのですが、冬は思いのほか寒く暖房器具が必需品となったのには驚いたそうです。

作品は淡路、岐阜、信楽の土を混ぜて制作し、食器、花器、干支物、置物など様々なものを作っています。食器などの実用品は主婦の立場から自分で使ってみて、

軽く、使いやすいものになるよう気をつけているそうです。そして淡路の特産であるタコやイカをモチーフにした、愛くるしい風鈴や置物も作っています。特にタコは英語でoctopus(オクトパス)といい、いろいろな試験にパスするようにと縁起が良いので人気抜群で、受験生に幸運が訪れるようにと願って作られています。

またお雛様や鯉のぼりの置物も、陶器の温かみがあり、節句の季節にぴったりです。このように世界に一つだけしかない作品との出会いは感動そのものです。

「これからも地元の土を使って作品を作り、誰も作っていない作品に挑戦しながら、もっともっと深く陶芸を追求していきたい」と話す松本さんからは、柔和な表情とやさしい口調の中にも、陶芸に対する熱意や妥協を許さない一途な思いがひしひしと伝わってきました。

11月20日から27日までサンシャインホールで展覧会を開催します。皆様も一度作品の数々と出会ってください。心がとても豊かになりますよ。 応援隊: 廣岡 ひろ子

